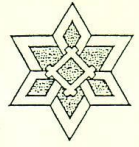


ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和5年6月30日発行

(本年度4号)



福井小学校 校訓

誠を求め 身を鍛え 共に勉る 福井校

1 学期ラストスパート

梅雨らしい天気が続いています。湿度も高くムシムシしますが、教室はエアコンが稼働していて快適です。7月1日に実施される小学生陸上競技大会に向けて、参加選手が放課後の短い時間を有効に使い練習を頑張っています。先週から、水泳学習も始まりました。コロナ禍で水泳学習の経験が少ない学年もあり、梅雨の合間を縫って水泳学習にも力を入れていきたいです。



6月22日(木)には「京のスポーツ夢バンク」の事業として、ダブルダッチパフォーマーの見島良拓氏とNEWTRADの皆さんをお招きして、ワークショップを実施しました。見島氏はCirque・du・Soleilアーティストなど世界的に活躍されているダブルダッチの第一人者で、子ども達に「自分に「自信」をもって、何事にも思い切って挑戦することが大切」と話されました。また、NEWTRADの皆さんには、ダブルダッチのご指導いただき「みんな絶対に跳べるようになる」との宣言通り、全員が二本のロープで跳ぶことができました。縄跳びが苦手な子や実際に躊躇する子もいましたが「さすがプロ!」と思わせるロープ捌きで見事に全員が成功し、一人一人に「自信」を持たせてくださいました。そして最後の軽快で見事なパフォーマンスは圧巻。子ども達の目は釘付けでした。「自信がなかったけど跳ぶことができて楽しかった」という感想も多くあり、子ども達に「やればできる。自信を持って頑張れ」とエールをもらったようでした。

「自信」は自己肯定感から生まれ、それを高めるためには、自分を認知する力が大切です。他者の認知によるものを「他律性自己肯定感」と言うそうですが、良い部分だけにフォーカスしがちで「(他者から)作られた自信」とも言い、失敗した時にもろい面があります。結果に一喜一憂し、ただ表面的に褒めればよいのではないようです。

一方、自身の認知によるものを「自律性自己肯定感」と言うそうで、自分が自分を好きになる自尊感情がベースになっています。主体的な経験を積み重ねながら身に付くので「強く深い自信」になります。「褒めて伸ばす」とよく聞きますが、重要な点は「結果」ではなく「過程」にあると言われます。例えば子どもが100点を取った時「100点を取るってスゴイね!全問正解が素晴らしい。」と褒められるか「100点を取るってすごく勉強したんだね。その頑張りがスゴイ。」と褒められるかは違います。結果はどうであれ、一生懸命頑張った事実は本人が一番よく知っていますから、頑張った過程を最大限に認め評価されることで、自己認知を深め、自分の努力に「自信」を持ちます。

「自律的自己肯定感」が育つと、チャレンジ精神が旺盛になり能動的な行動が多くなる傾向があります。また、様々な困難に立ち向かったり自分で判断して意思決定することができたりします。ストレスが強くなり、怒りをコントロールできる力も付くそうです。ダブルダッチのプロとして活躍する見島氏やNEWTRADの皆さんは、色々な挫折や壁にぶつかりながら体験を積み重ねて「自信」を手にしたのでしょう。もしかすると今も成長されている最中かも知れません。「自分磨き」に終わりはありませんが、経験をしっかり積み重ねながら、自分自身を信頼する心が大切なのだと思います。

7月に入り1学期も後2週間となりました。1学期のまとめに向けてラストスパートに取り組みながらたくさん「自信」を付けてほしいと思います。保護者・地域の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同